

市民アンケート結果について

1. 調査目的

市内の事業者を対象に、ごみ排出状況や減量・リサイクルについての意識調査を行い、その実態・傾向を把握するとともに、課題等を分析し、新たな「弘前市一般廃棄物処理基本計画」策定の基礎資料とする。

具体的には、アンケート結果を計画に掲載するとともに、事業者等の意見を計画に反映し、より実効性のある計画づくりを行う。

2. 調査対象・抽出方法

平成 27 年 10 月 1 日時点で住民登録されている、弘前市に住む満 20 歳以上の**市民 2,000 人**とし、住民基本台帳より無作為抽出。20 歳以上の性別・年齢別の構成比をもとに発送数を設定。

表 性別・年代別の発送数

	男性	女性
20代	112 (6%)	109 (5%)
30代	132 (7%)	136 (7%)
40代	149 (7%)	161 (8%)
50代	153 (8%)	172 (9%)
60代	174 (9%)	200 (10%)
70代	117 (6%)	165 (8%)
80代以上	68 (3%)	152 (8%)
合計	905 (45%)	1,095 (55%)

※ 発送数の設定は5歳ごとに実施。

※ 端数調整あり。割合は小数点第1位を四捨五入で計算。

3. 調査方法

郵送による調査票の発送及び回収。無記名での調査とした。

4. 調査実施時期

11～12月

5. 回収状況

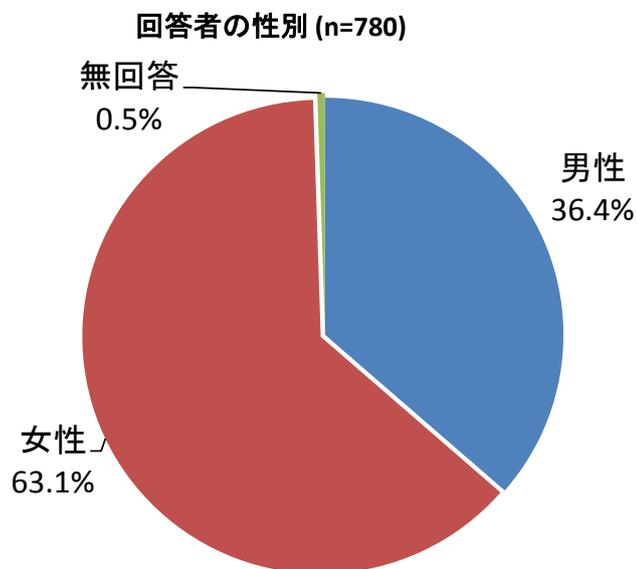
市民アンケート：発送数 2,000 / 回収数 780 / 回収率 39%

6. 市民アンケート調査結果

I. 回答者に関する情報について

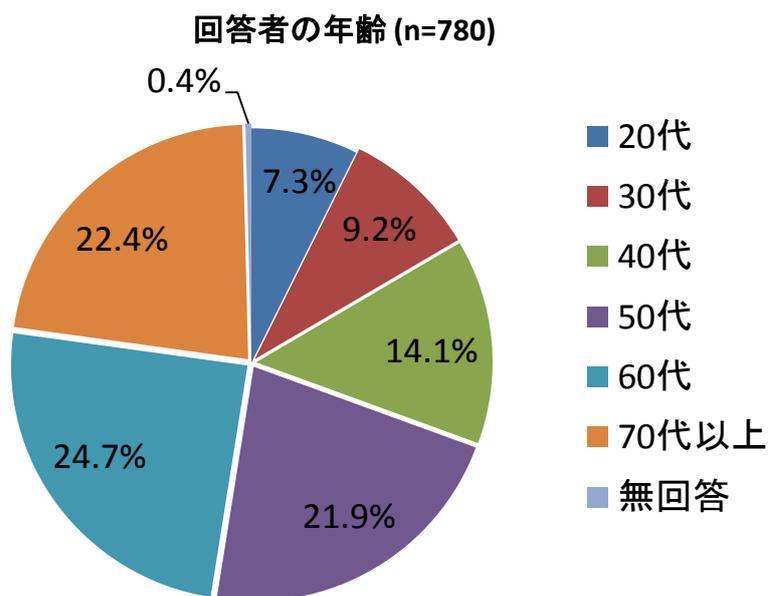
① 回答者の性別

回答者に対して性別を聞いたところ、「男性」が 36.4%（284 件）、「女性」が 63.1%（492 件）と、女性が 6 割を占めました。



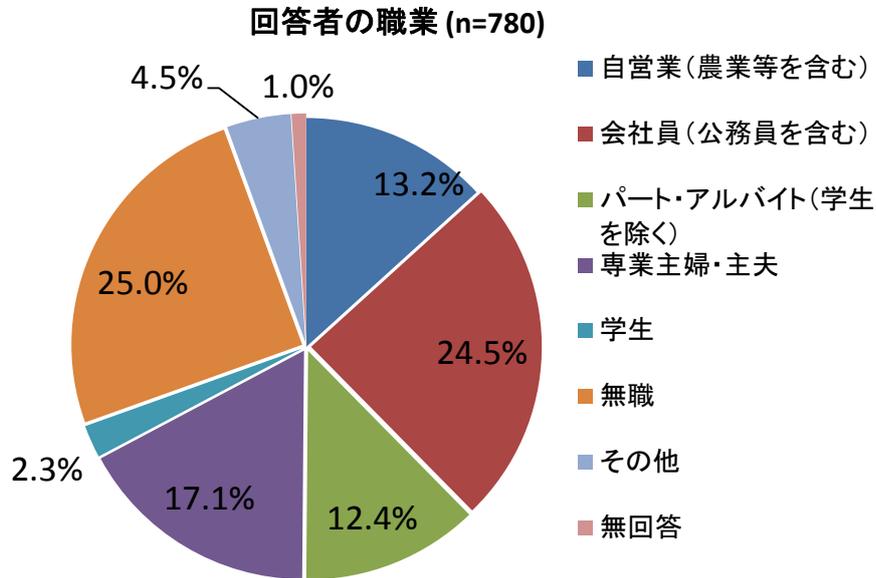
② 回答者の年齢

回答者に対して年齢を聞いたところ、「60代」が 24.7%（193 件）と最も多く、次いで「70代以上」22.4%（175 件）、「50代」21.9%（171 件）と、年齢が高い回答者からの回答が多くなっています。



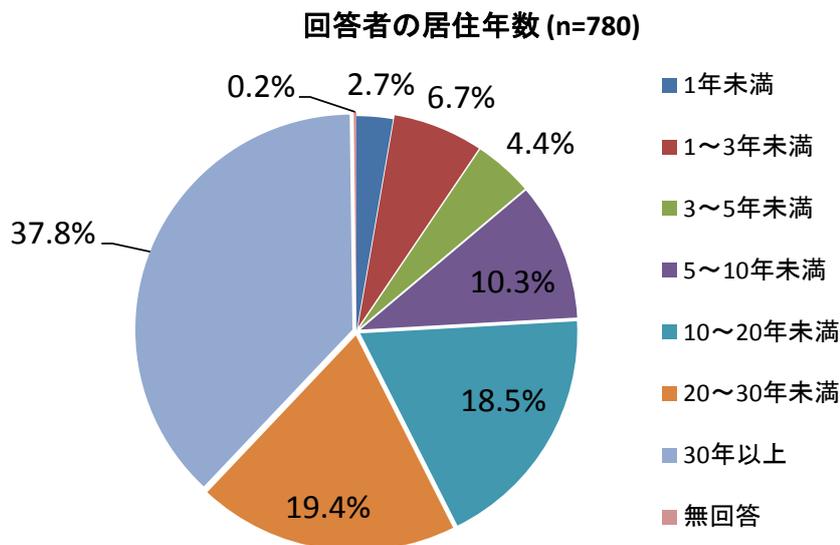
③ 回答者の職業

回答者に対して職業を聞いたところ、回答者の年齢が高かったことが影響し、「無職」が25.0%（195件）と最も多く、次いで「会社員（公務員を含む）」24.5%（191件）、「専業主婦・主夫」17.1%（133件）でした。



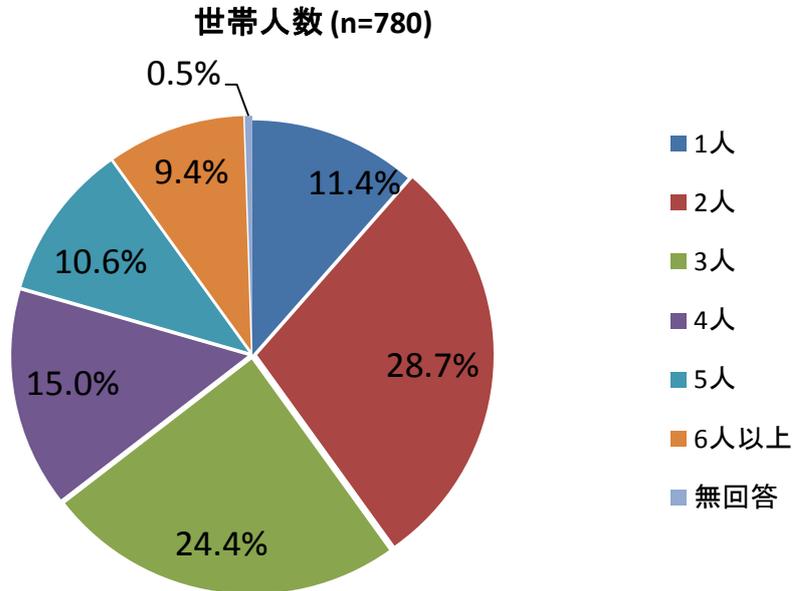
④ 居住年数

回答者に対して現在の住居への居住年数を聞いたところ、「30年以上」が37.8%（295件）と最も多く、次いで「20～30年未満」19.4%（151件）、「10～20年未満」18.5%（144件）で、20年以上居住している回答者が6割程度を占めました。



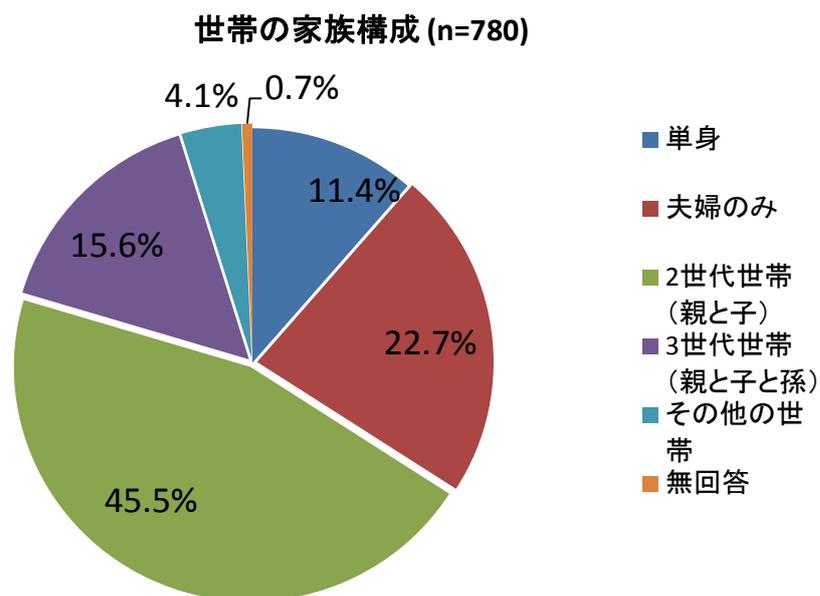
⑤ 世帯人数

回答者に対して回答者を含む世帯人数を聞いたところ、「2人」が28.7%（224件）と最も多く、次いで「3人」24.4%（190件）、「4人」15.0%（117件）で、2～3人世帯が約5割となっています。



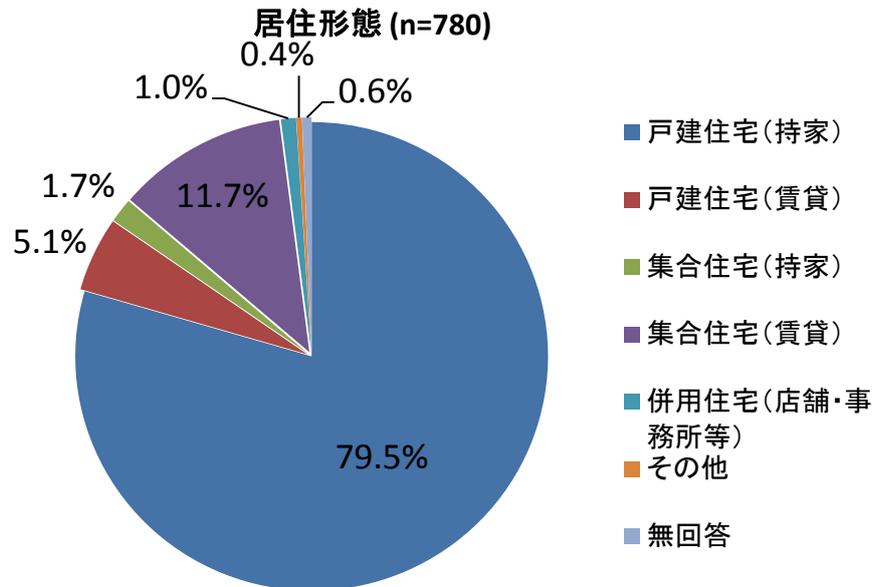
⑥ 世帯の家族構成

回答者に対して家族構成を聞いたところ、「2世代世帯（親と子）」が45.5%（355件）と最も多く、次いで「夫婦のみ」22.7%（177件）、「3世代世帯（親と子と孫）」15.6%（122件）で、2世代世帯が約半数を占めました。



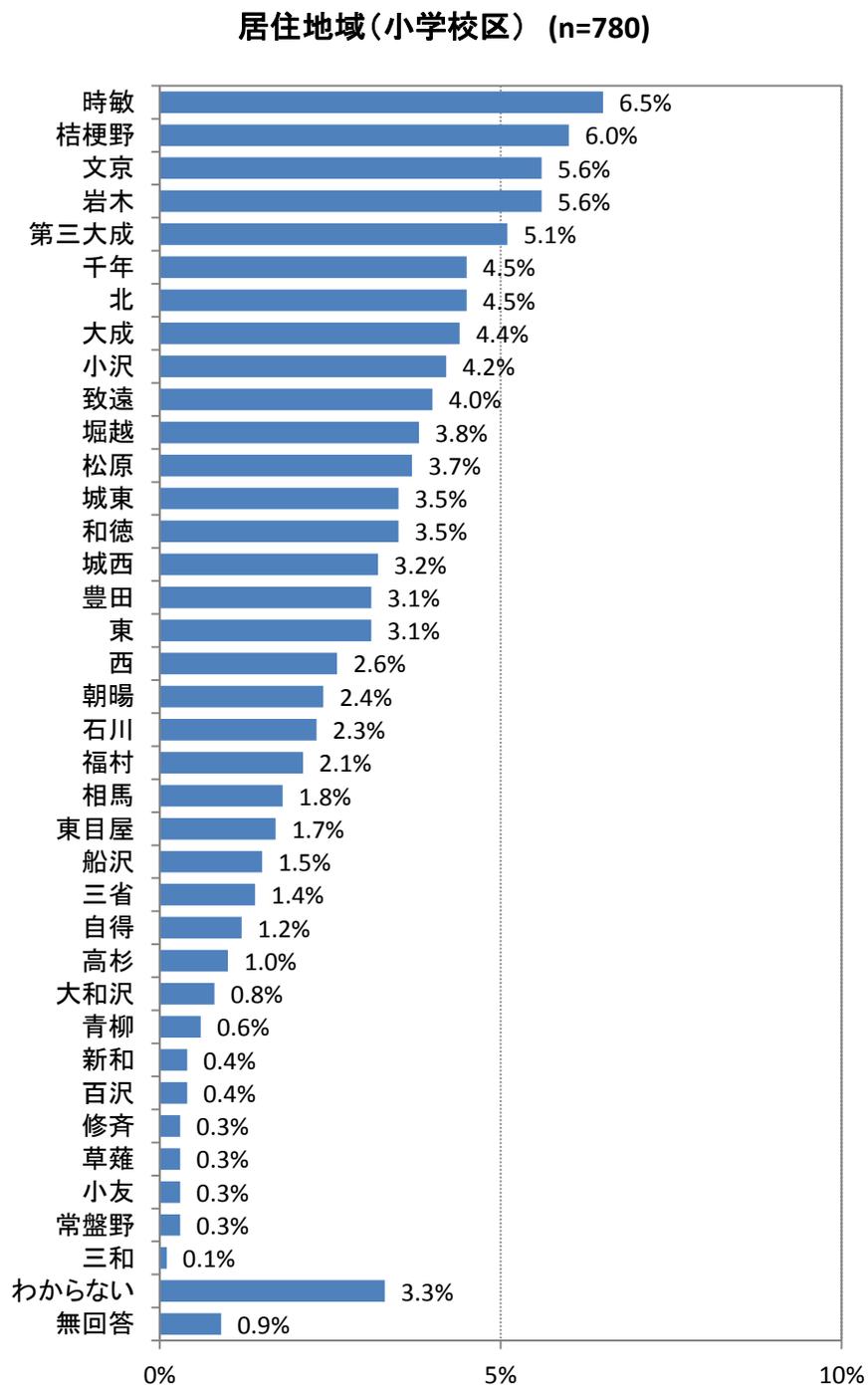
⑦ 住居の種類

回答者に対してお住まいの種類を聞いたところ、「戸建住宅（持家）」が79.5%（620件）と約8割を占め、次いで「集合住宅（賃貸）」11.7%（91件）でした。回答者の居住年数が長く、持ち家比率が高いことから、今回のアンケート回答者は、弘前在住歴が長く、弘前市のごみ排出実態に長年かかわっている方からの回答が多いことがわかります。



⑧ 居住地

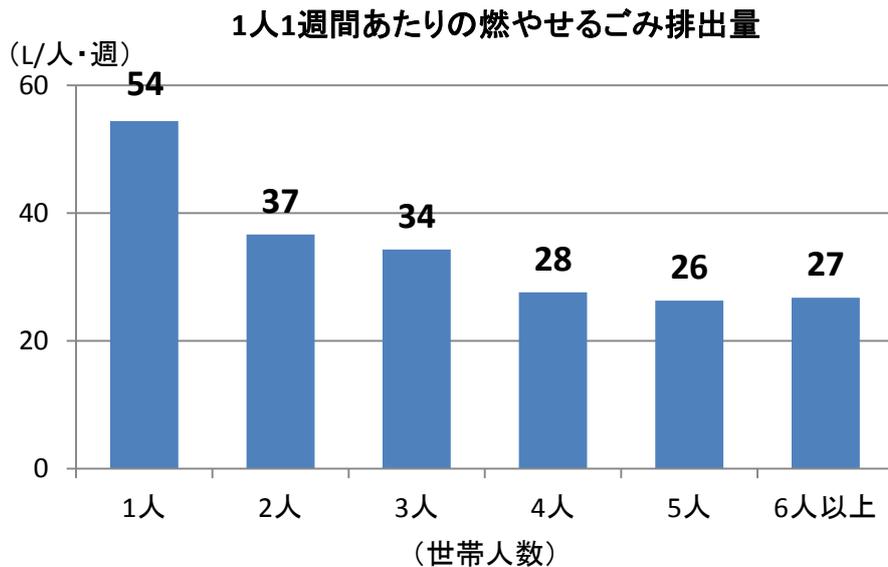
回答者に対してお住まいの小学校区を聞いたところ、「時敏」が6.5%（51件）と最も多く、次いで「桔梗野」6.0%（47件）、「文京」、「岩木」5.6%（44件）でした。



Ⅱ. ごみの排出状況について

① 1週間の燃やせるごみの排出量

回答者に対して、家庭全体の「燃やせるごみ」の排出状況について、1週間でどの程度排出しているか、袋の容量ごとに排出数を記載いただく形で聞きました。世帯人数ごとに1週間の排出量を算出したところ、「1人世帯」の1週間あたりの排出量が54Lと最も多く、次いで「2人世帯」の37L、3人世帯の34Lとなっており、世帯の構成人数が少ないほど、1人あたりの燃やせるごみの排出量が増加する傾向がみられました。



※ アンケートでは、45L、30L、20L、10L、10L未満毎にそれぞれ袋の数を記載する形で聞いたため、袋の容量に記載いただいた袋の数を乗じて、家庭の排出量を算出しています。また、10L未満は5Lとして計算、6人以上の世帯については個々に人数が異なると考えられますが、ここでは7人として計算しています。

② ごみの種類ごとの排出方法

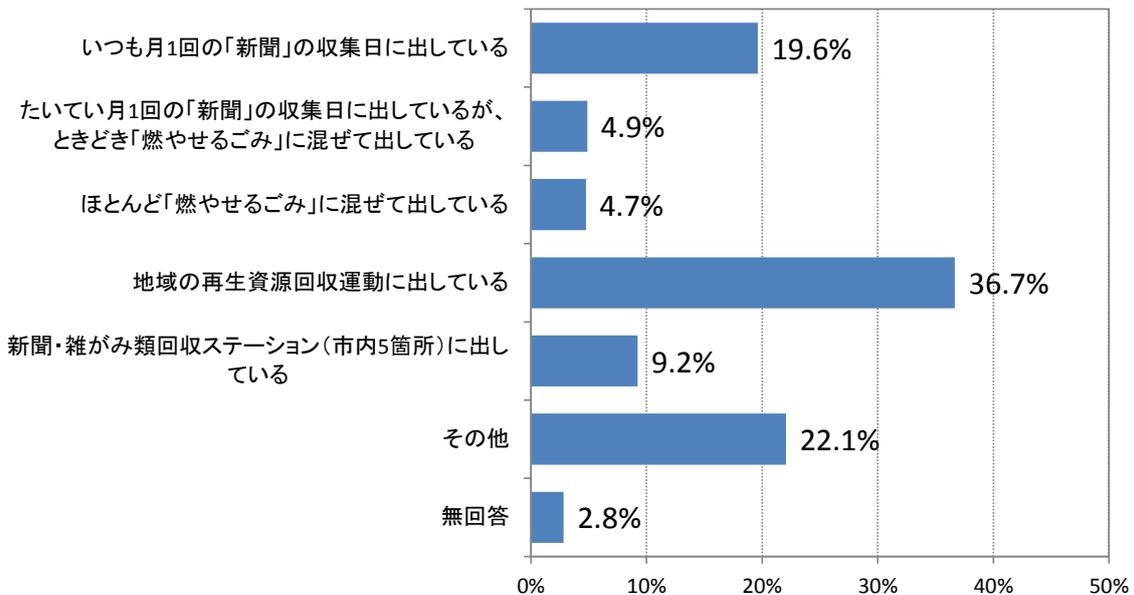
回答者に対して、ごみの種類ごとに普段どのような方法で排出しているかお伺いしました。

(ア) 新聞

「地域の再生資源回収運動に出している」が36.7%（286件）と最も多く、次いで「その他」22.1%（172件）、「いつも月1回の「新聞」の収集日に出している」19.6%（153件）となっています。

その他としては、新聞を購読していないが61件ありましたが、回収業者やスーパーの回収ボックスなどを利用して排出しているという回答が多く挙げられており、適切にリサイクルされている傾向がみられました。一方でほとんど、またはときどき燃やせるごみとして排出している割合が約10%存在するため、まだまだ資源化可能な新聞紙が燃やせるごみとして排出されていることがわかりました。

新聞の排出方法 (n=780)



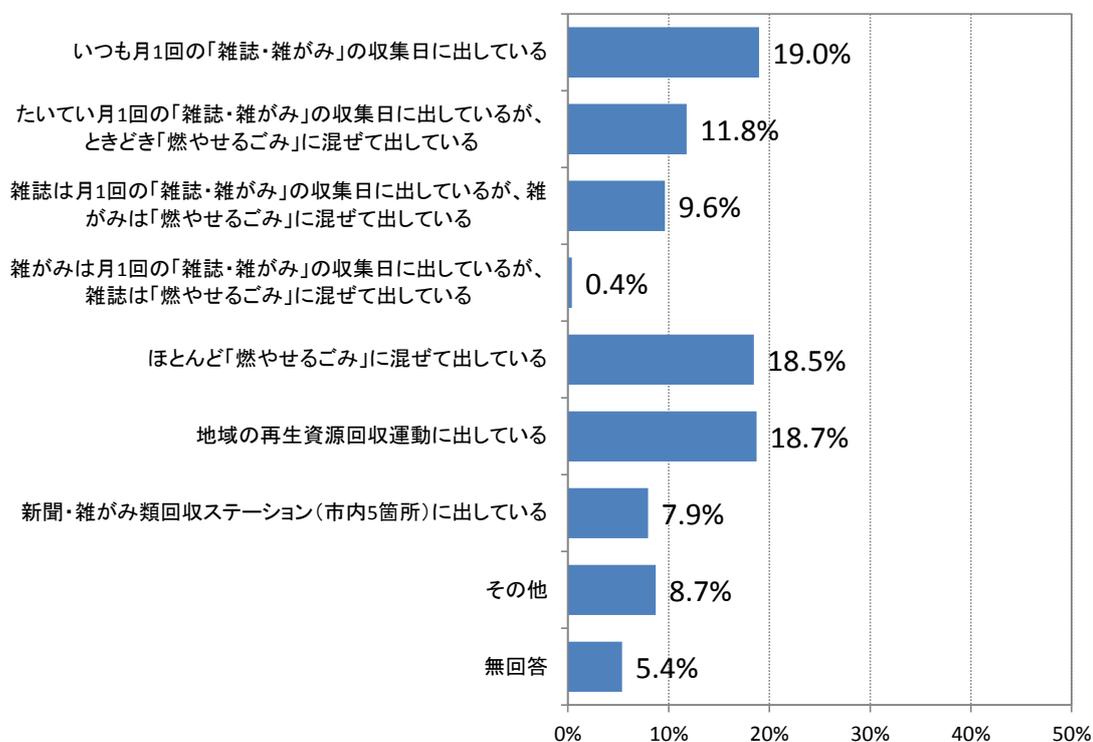
(イ) 雑誌・雑がみ

「いつも月1回の「雑誌・雑がみ」の収集日に出している」が19.0%（148件）と最も多く、次いで「地域の再生資源回収運動に出している」18.7%（146件）、「ほとんど「燃やせるごみ」に混ぜて出している」18.5%（144件）となっています。

その他としては、新聞同様、回収業者やスーパーの回収ボックスなどを利用して排出しているという回答が多く挙げられています。

また、ほとんど燃やせるごみとして排出している割合が18.5%と、新聞よりも高くなっており、特に雑がみだけでみると30%弱になります。これは、雑がみの分別方法がわかりにくく、何が雑がみなのか判断できない市民が多く存在しているためであり、ご意見としても多く寄せられました。このため、早急に雑がみの分別方法について、よりわかりやすい形で普及啓発する必要があります。

雑誌・雑がみの排出方法 (n=780)



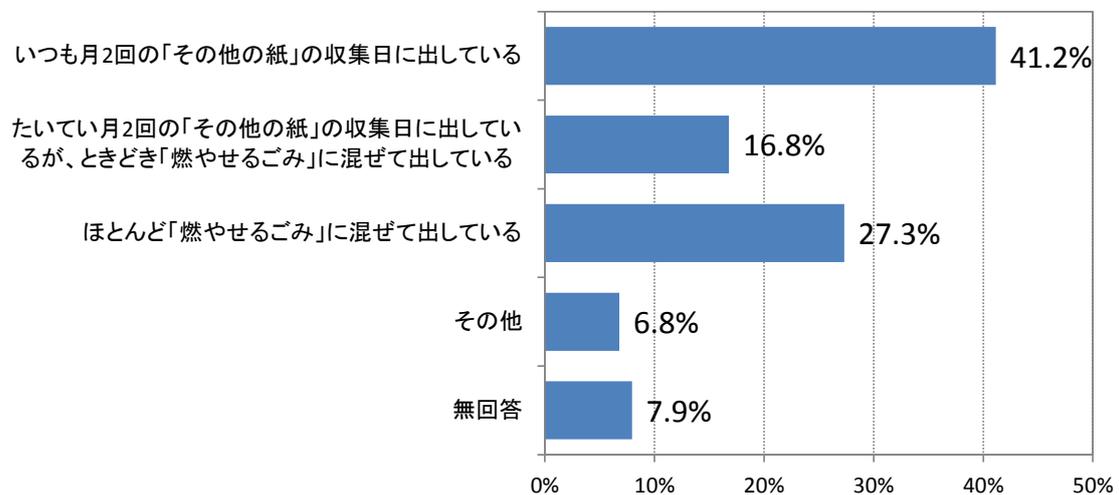
(ウ) その他の紙

「いつも月2回の「その他の紙」の収集日に出している」が41.2%(321件)と最も多く、次いで「ほとんど「燃やせるごみ」に混ぜて出している」27.3%(213件)、「たいてい月2回の「その他の紙」の収集日に出しているが、ときどき「燃やせるごみ」に混ぜて出している」16.8%(131件)となっています。

その他としては、新聞同様、回収業者やスーパーの回収ボックス、再生資源回収運動等を利用して排出しているという回答が多く挙げられています。

また、ほとんど燃やせるごみとして排出している割合が3割弱と非常に高くなっており、ときどき燃やせるごみに排出している人を含めると4割を超えます。雑がみ同様に分別方法がわかりにくいことが影響したためと考えられ、よりわかりやすい形で普及啓発する必要があります。

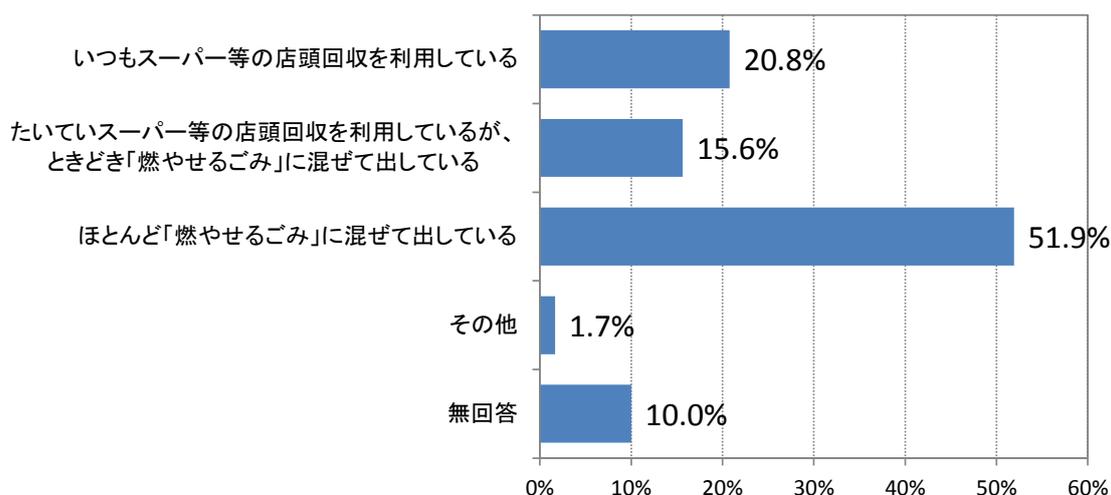
その他の紙の排出方法 (n=780)



(工) 白色トレイ

「ほとんど「燃やせるごみ」に混ぜて出している」が51.9%（405件）と半数を占めており、次いで「いつもスーパー等の店頭回収を利用している」20.8%（162件）、「たいていスーパー等の店頭回収を利用しているが、ときどき「燃やせるごみ」に混ぜて出している」15.6%（122件）となっています。資源ごみとして排出するためには店頭回収にもっていく手間がかかるとから、燃やせるごみとして排出される割合が高くなっています。

白色トレイの排出方法 (n=780)

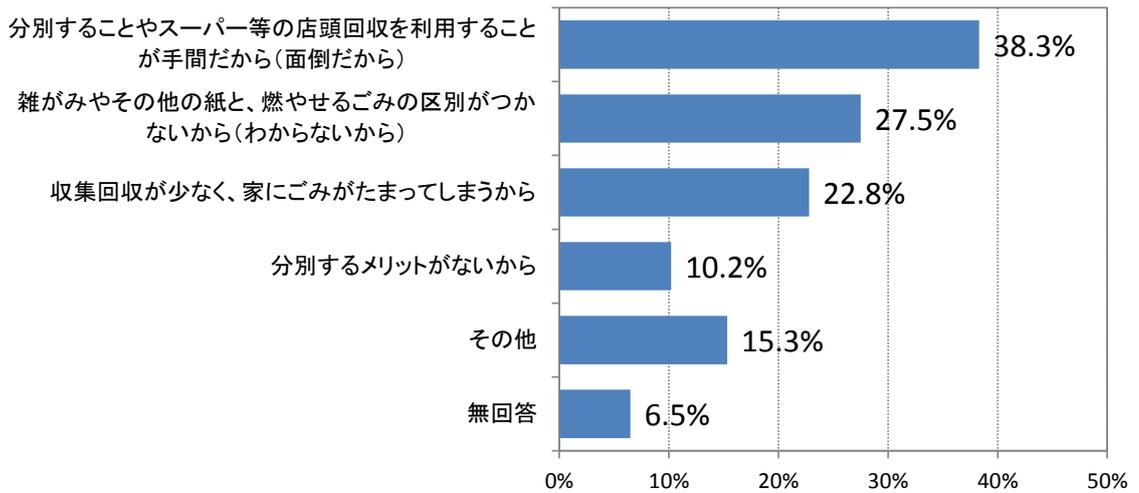


③ 燃やせるごみとして排出する理由

新聞、雑誌・雑がみ、その他の紙、白色トレイについて、いずれか1つでも「ほとんど「燃やせるごみ」に混ぜて出している」と回答した方に、「燃やせるごみ」に混ぜて出している理由を聞いたところ、「分別することやスーパー等の店頭回収を利用することが手間だから（面倒だから）」が38.3%（195件）と最も多く、次いで「雑がみやその他の紙と、燃やせるごみの区別がつかないから（わからないから）」27.5%（140件）、「収集回収が少なく、家にごみがたまってしまうから」22.8%（116件）でした。

その他としては、量的に少ないことや、燃やせるごみとして排出してもよいと考えたこと等が理由として挙げられました。今後は、雑がみとその他の紙の分別方法の普及・啓発と合わせて、店頭回収利用のさらなる推奨を図っていくことにより、燃やせるごみを減らすことができると考えられます。

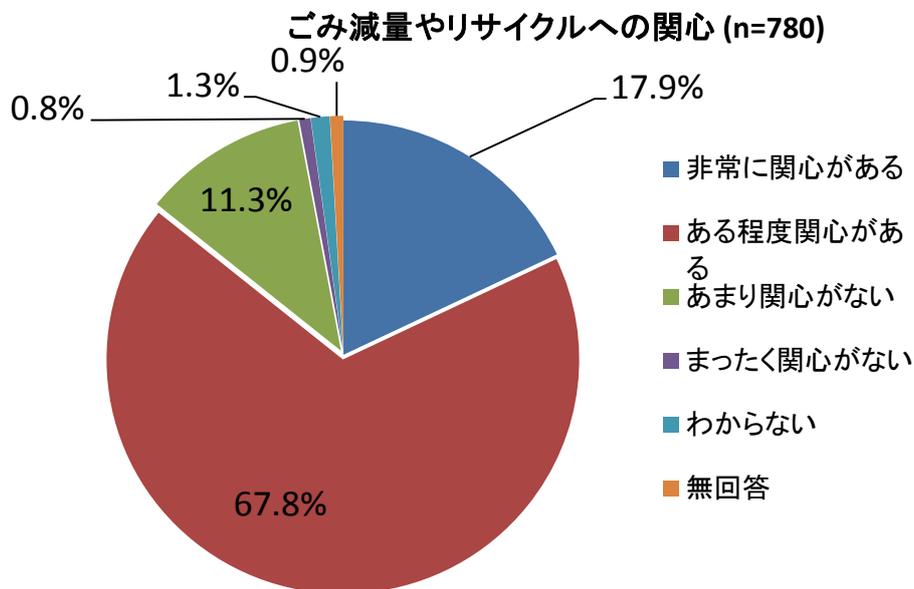
「燃やせるごみ」に混ぜて出している理由 (n=509)



Ⅲ. ごみ減量やりサイクルに対する考え方について

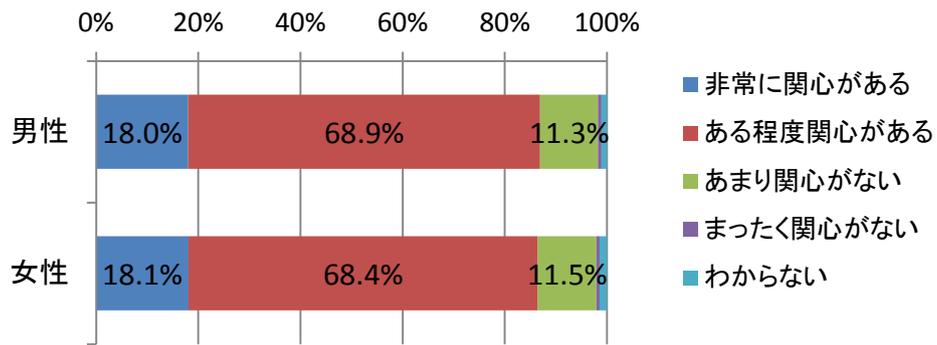
① ごみの減量やりサイクルへの関心

回答者に対して、ごみの減量やりサイクルに関心があるか聞いたところ、「ある程度関心がある」が67.8% (529件)と約7割を占め、次いで「非常に関心がある」17.9% (140件)となっており、感心がある人(「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計)は約85%と関心を示している人が多く見られました。

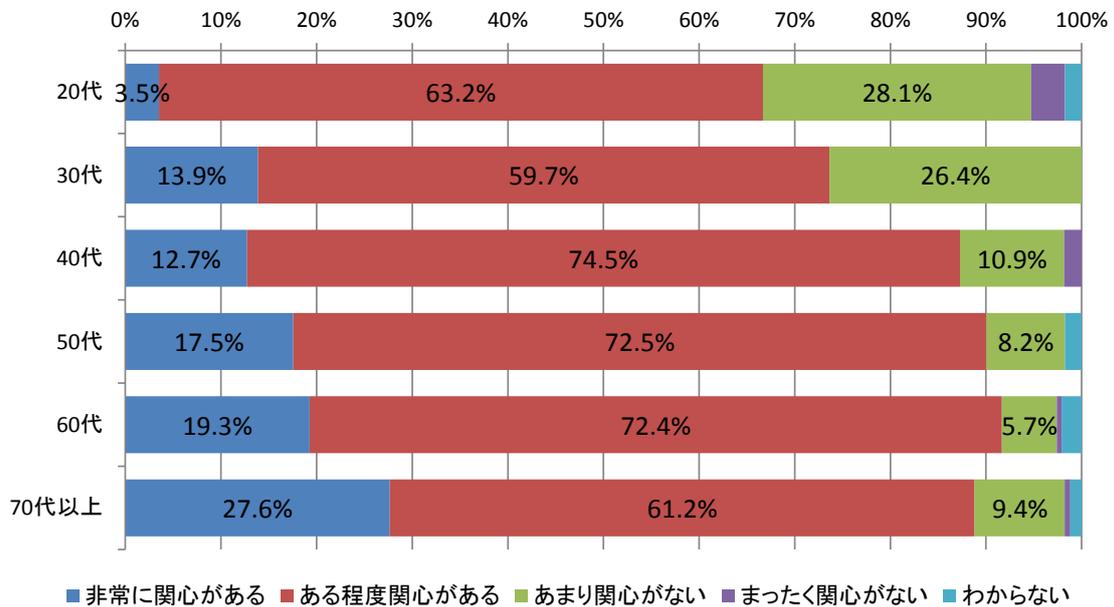


※ 男女別では全体の傾向と差はありませんが、年代別にみると年齢が高いほど関心が高い傾向にありました。

ごみ減量・リサイクルへの関心(男女別)



ごみ減量・リサイクルへの関心(年代別)



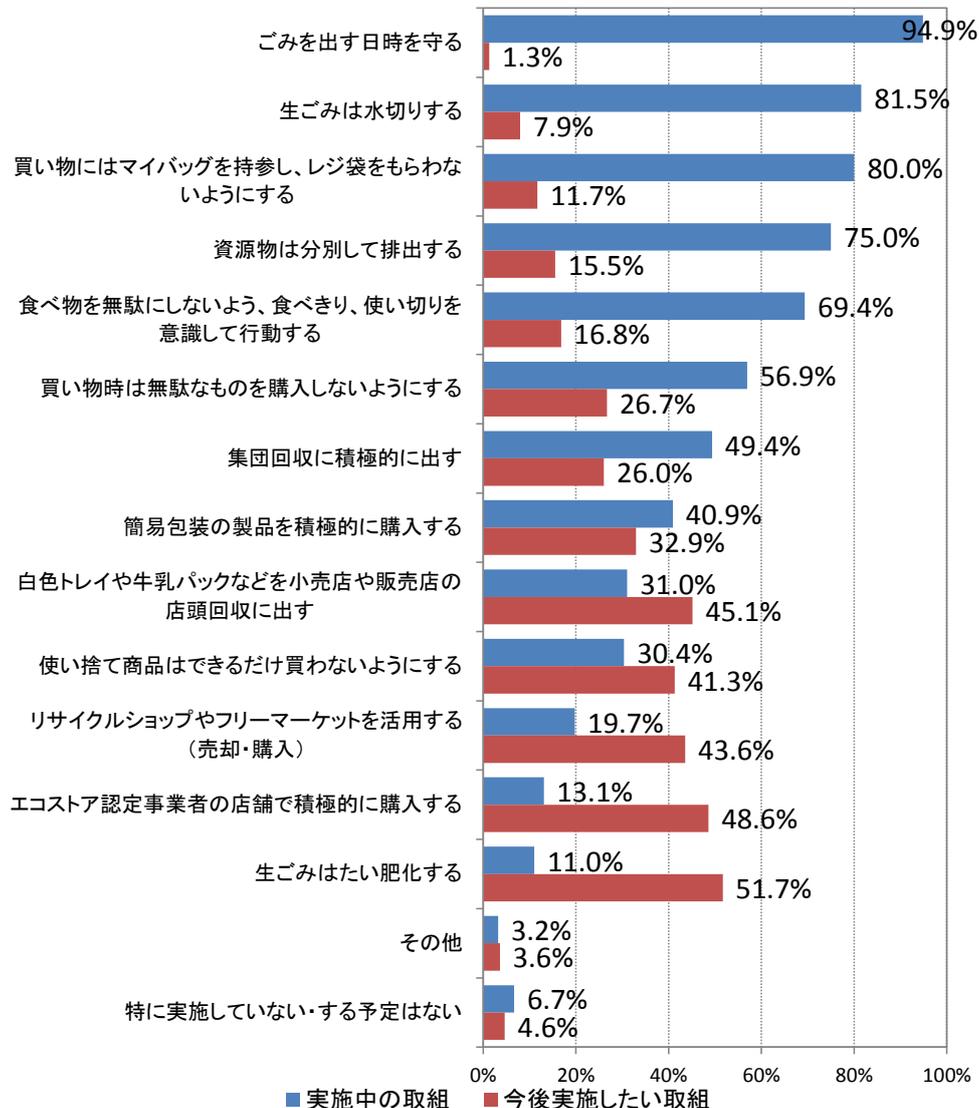
② 日頃から実践している取組と、今後実施していきたい取組

回答者に対して、日頃からごみの減量やリサイクルを実践しているか、今後ごみの減量やリサイクルのために、どのような取組を行っていきたいかを聞いたところ、実践中の取組としては「ごみを出す日時を守る」が94.9%（740件）と最も多く、次いで「生ごみは水切りする」81.5%（636件）、「買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋をもらわないようにする」80.0%（624件）となっています。

上記の取組については、現在実施していない人でも、半数以上の人々が今後実施したい取組に挙げており、今後さらに実施率は上昇すると考えられます。

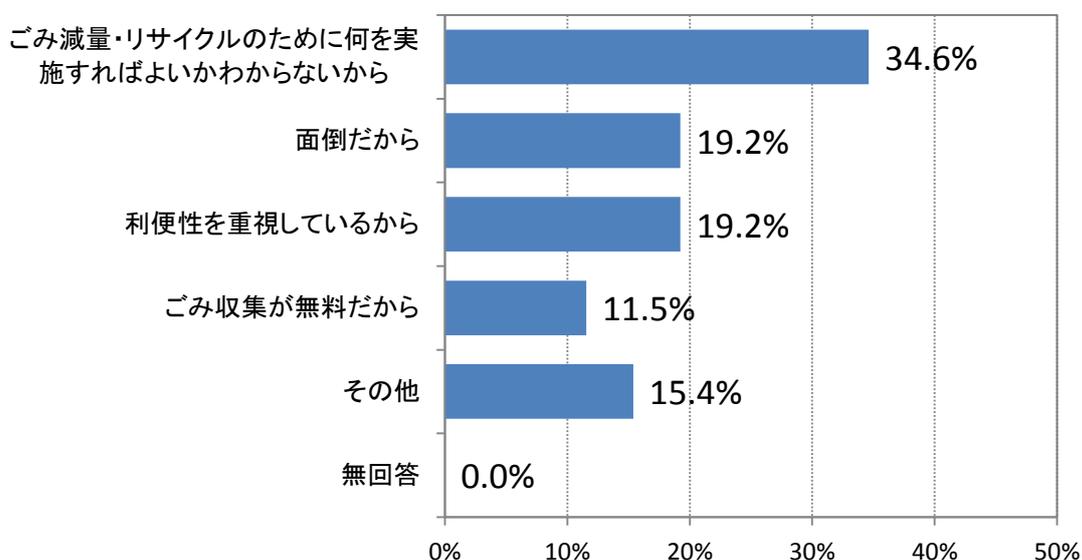
実施率が低かった取組についても、今後実施したい取組として挙げられており、特に生ごみたい肥化は回答者の半数以上が今後実施したいと回答しており、生ごみ処理機の導入助成による市民の取組実践を後押しすることや、ごみの減量やリサイクルにつながる取組の実践方法を普及・啓発することにより、さらなる取組の実施が期待できます。

日頃から実践している取組・今後実施したい取組 (n=780)



特に取り組みを実施していない・する予定はないと回答した方に、実施しない理由を聞いたところ、「ごみ減量・リサイクルのために何を実施すればよいかわからないから」が34.6%（9件）と最も多く、次いで「面倒だから」、「利便性を重視しているから」が各19.2%（5件）でした。今回のアンケートで選択肢として挙げた取組は、すべてごみ減量・リサイクルにつながる取組ですが、特に高齢な方にもわかりやすいよう、何をどうすればよいのか具体的に挙げ、市やNPO・民間のイベント、地域の集まり、老人会等において体験学習できるよう、より分かりやすい形で普及啓発を行っていく必要があります。

ごみの減量やリサイクルの取り組みを実施しない理由（n=26）

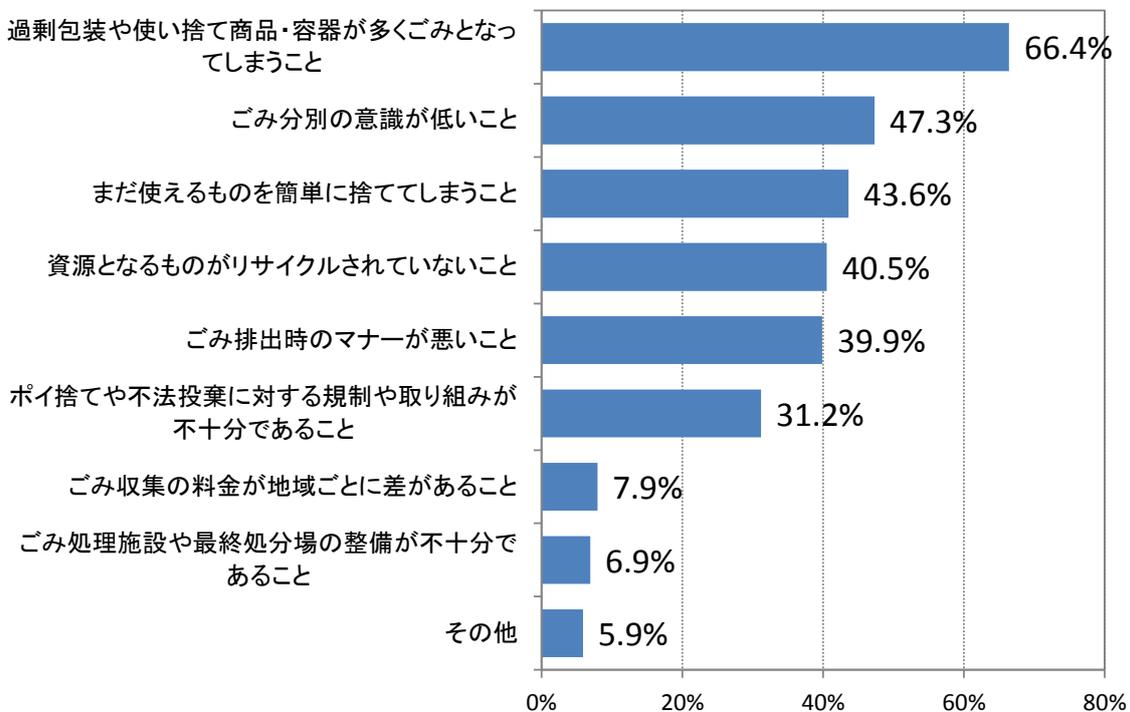


③ ごみ問題に関する課題

回答者に対して、ごみ問題に関してどのような課題があると考えたところ、「過剰包装や使い捨て商品・容器が多くごみになってしまうこと」が66.4%（518件）と最も多く、次いで「ごみ分別の意識が低いこと」47.3%（369件）、「まだ使えるものを簡単に捨ててしまうこと」43.6%（340件）となっています。その他としては、雑がみやその他の紙の分類の仕方がわかりづらいことや幼少期からの教育の必要性、どのようにリサイクルされているのか不明瞭であることなどが挙げられました。

市民ひとりひとりのさらなる意識の向上を図るとともに、事業者に対してもごみを出さない商品の開発・販売・売り方の工夫を求めていく必要があります。

ごみ問題に関する課題 (n=780)

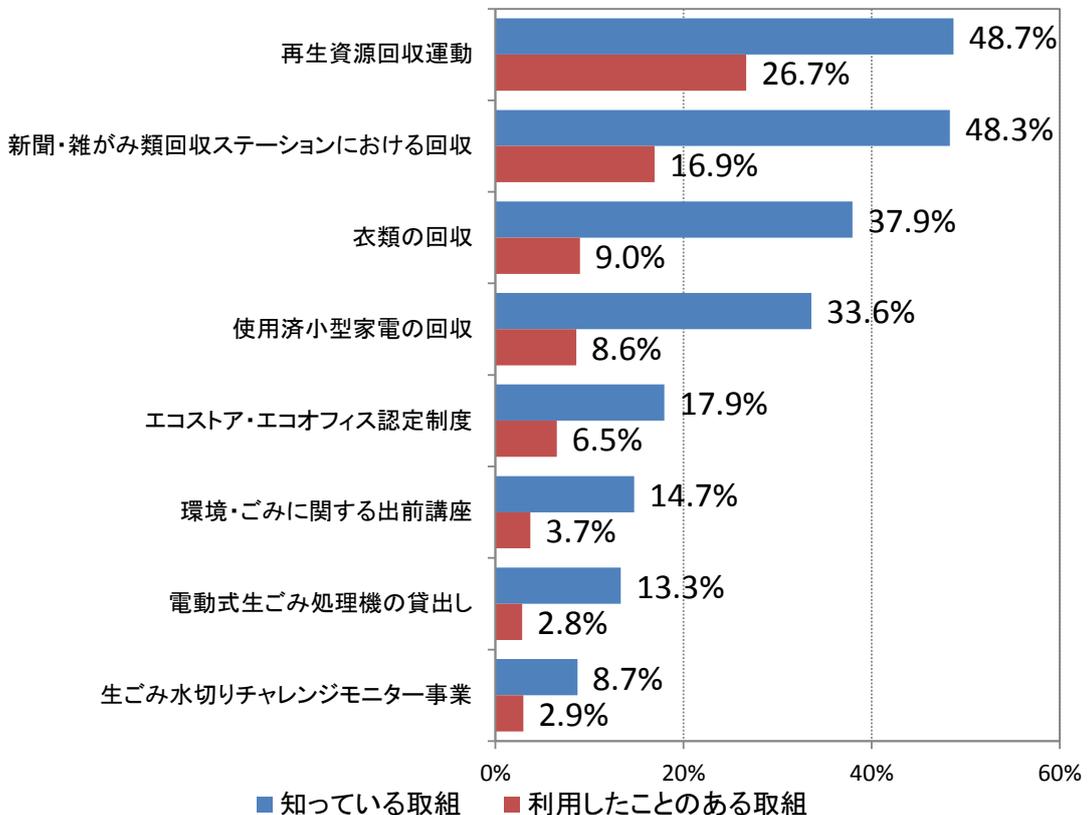


④ 弘前市が実施しているリサイクルに関する取組の認知度・利用経験

回答者に対して、弘前市が実施しているリサイクルに関する取り組みについて、知っているもの、利用したことがあるものを聞いたところ、知っている取組としては「再生資源回収運動」が48.7%（380件）と最も多く、次いで「新聞・雑がみ類回収ステーションにおける回収」48.3%（377件）、「衣類の回収」37.9%（296件）となっています。利用経験のある取組についても、認知度が高い取組ほど利用率が高くなっています。

しかしながら、いずれの取組も認知度が5割以下と、更なる周知・広報に力を入れていく必要があります。具体的には、「ごみ減量・リサイクルに関する情報の入手先」の設問で回答いただいた媒体等を用いて、よりわかりやすく、より訴求効果の高い周知・広報が求められます。

弘前市が実施しているリサイクルに関する取組の認知度・利用経験
(n=780)

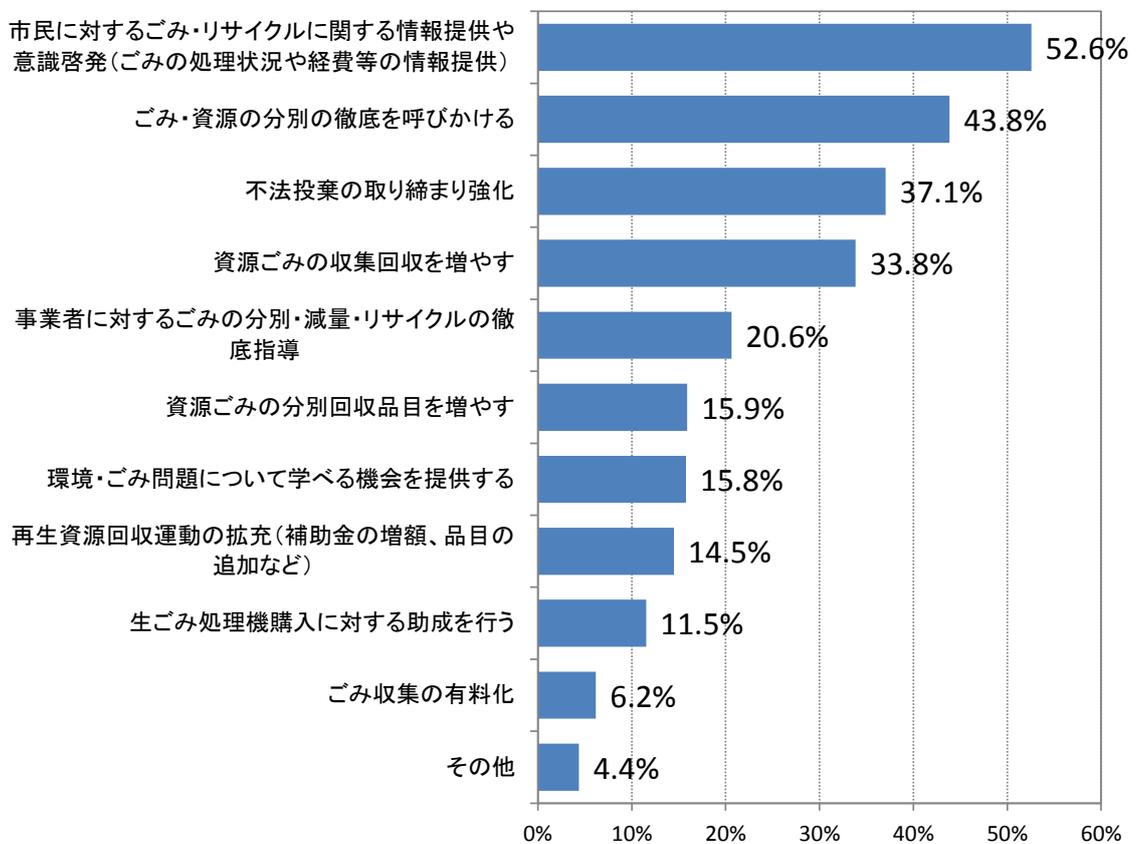


⑤ ごみ減量やリサイクルを進めていくうえで重要な事項

回答者に対して、ごみ減量やリサイクルを進めていくうえで、何が重要だと考えるか聞いたところ、「市民に対するごみ・リサイクルに関する情報提供や意識啓発（ごみの処理状況や経費等の情報提供）」が52.6%（410件）と最も多く、次いで「ごみ・資源の分別の徹底を呼びかける」43.8%（342件）、「不法投棄の取り締まり強化」37.1%（289件）となっています。

その他としては、資源回収場所の増加や、資源ごみ適正排出時のポイント制度の導入、ごみ減量・リサイクルによる市民のメリットの見える化等が挙げられました。

ごみ減量やリサイクルを進めていくうえで重要な事項（n=780）



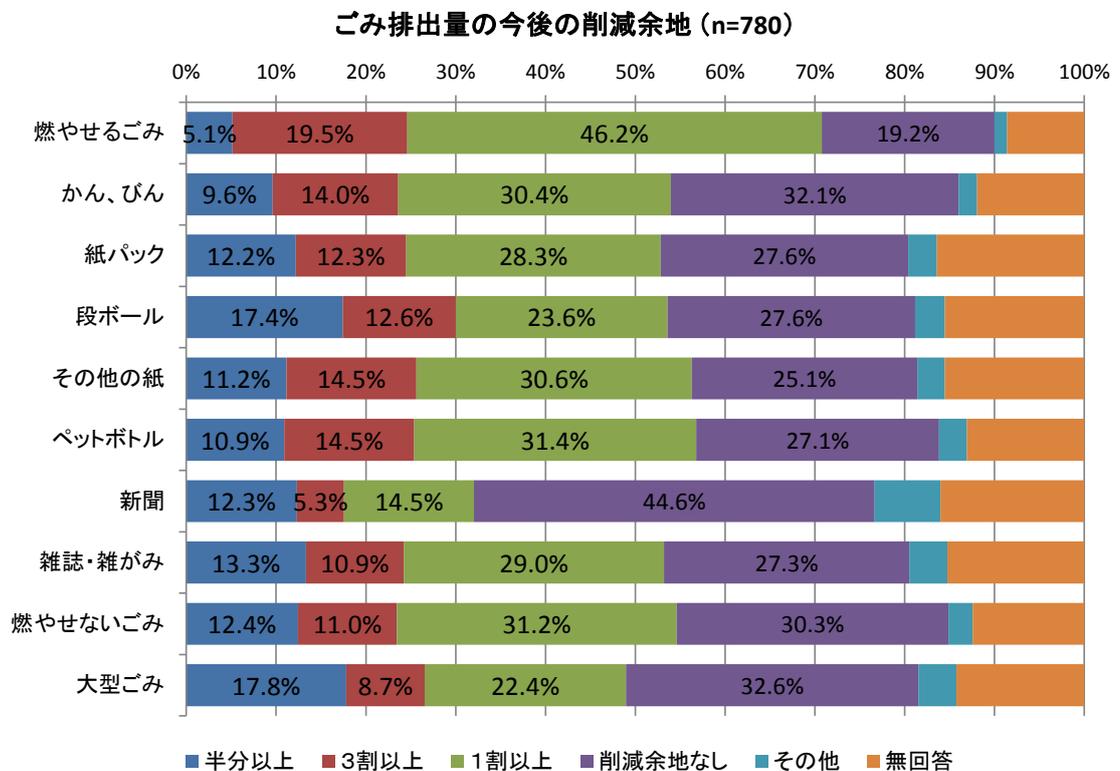
⑥ ごみ排出量の今後の削減余地

回答者に対して、家庭全体で排出されるごみの量について、今後どの程度まで減らすことが可能か、分別区分ごとにお伺いしました。

燃やせるごみでは、7割以上の方が「半分以上」、「3割以上」、「1割以上」のいずれかと回答しています。「削減余地なし」も約2割存在しますが、全体で見ると1割以上は確実に削減可能と考えられます。

新聞以外のごみでは、燃やせるごみよりも「削減余地なし」とした人が多かったものの、5割以上の方が「半分以上」、「3割以上」、「1割以上」のいずれかと回答しており、他のごみについても1割程度は削減可能と考えられます。

さらに、ごみ減量・リサイクルの重要性を理解し、実践してもらえるよう、様々な情報を適切に・的確に発信していくことにより、確実な削減の実施につなげていく必要があります。



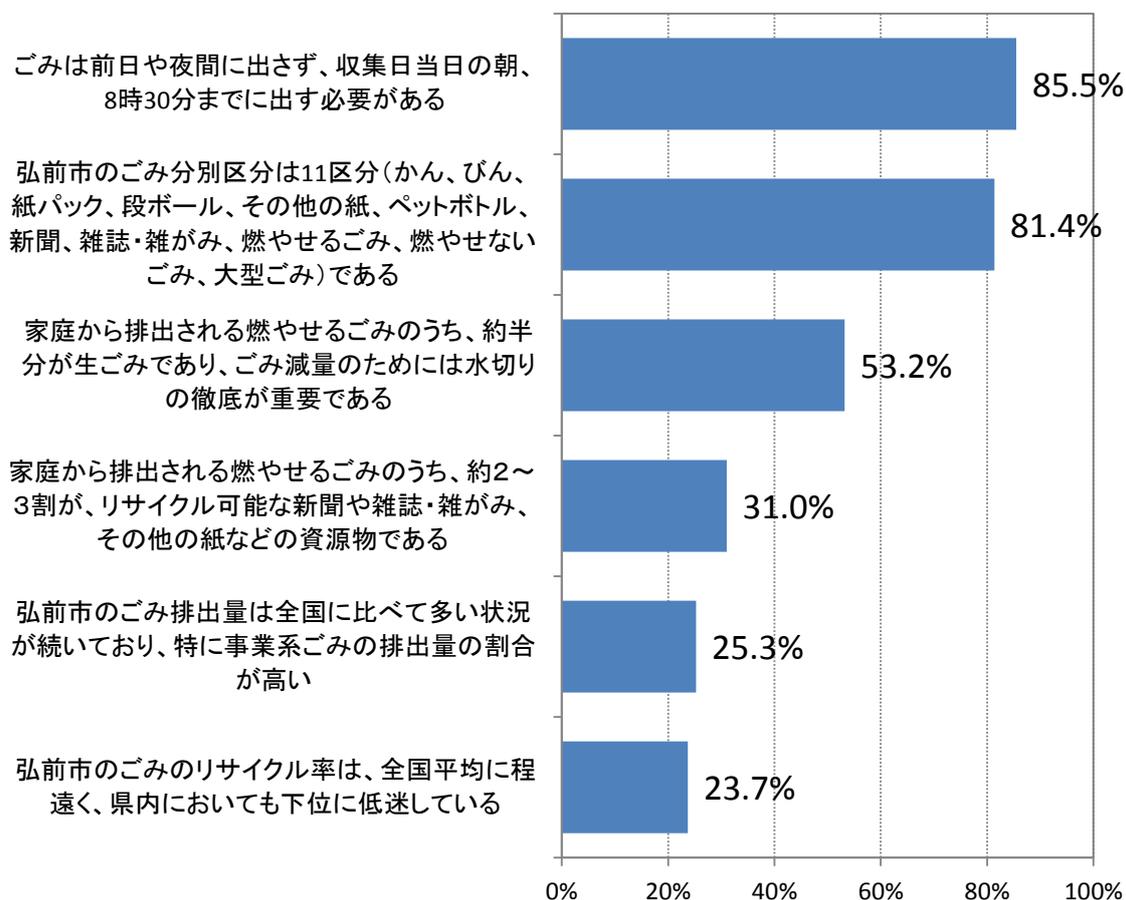
⑦ ごみ排出・リサイクルの現状の認知度とごみ減量・リサイクルに関する情報の入手先

回答者に対して、弘前市のごみ排出・リサイクルの現状について、知っているものを聞いたところ、「ごみは前日や夜間に出さず、収集日当日の朝、8時30分までに出す必要がある」が85.5%（667件）と最も多く、次いで「弘前市のごみ分別区分は11区分である」81.4%（635件）となっていますが、ごみ分別区分については約18%の方が知らずに分別している状況であることがわかりました。

さらに、リサイクル可能な紙が燃やせるごみとして排出されていることや、ごみ排出量・リサイクル率ともに、全国と比較して下位レベルにあることについては、7割以上の方が「知らない」という結果となっています。

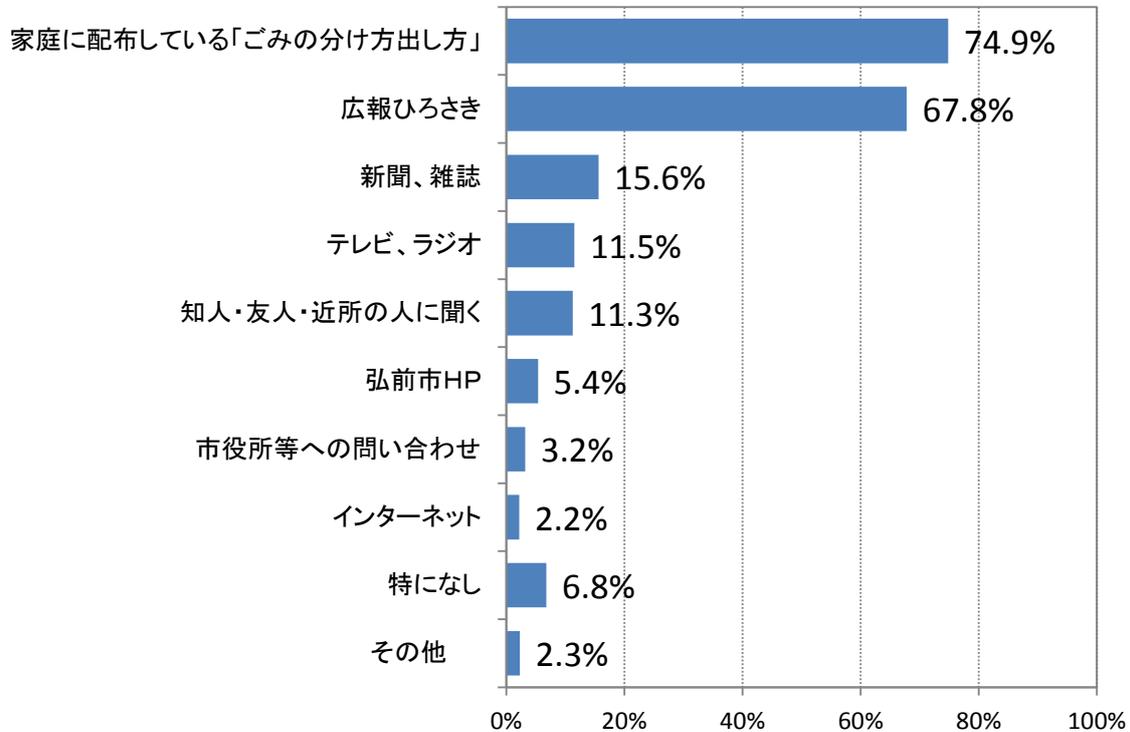
まずは現状を把握していただき、市民ひとりひとりが行動を起こしていく必要があるということを理解してもらう必要があります。

ごみ排出・リサイクルの現状の認知度 (n=780)



ごみ減量・リサイクルに関する情報の入手先としては、約7割の方が「広報ひろさき」や「家庭に配布している「ごみの分け方出し方」と回答していることから、これらを活用しつつ市民に対して早急に情報提供を行う必要があります。

ごみ減量・リサイクルに関する情報の入手先 (n=780)



IV. その他（市の施策に対するご意見等）

① 行政における課題・問題点、今後の方向性等に対する意見

当市におけるごみ行政における課題・問題点、今後の方向性等についてお伺いしたところ、主なご意見として以下が挙げられました。

【ごみ分別について】

- ・ 分別区分が少なくなり、分別に対する意欲が失われた。
- ・ 当初は分別して出さなければいけなかった「その他のプラスチック」が「燃やせるゴミ」に出してもよくなったのだから、ゴミの量が増えるのは当然である。プラスチック類の収集を見直してみてもどうか。
- ・ 資源物がどのように活用されているのかわからない。紙類の分別が面倒。
- ・ 分別したことにより、どの程度の利益につながっているのかを市民に公表し、分別に対する意識を高めるべきである。
- ・ 雑がみとその他の紙の仕分けがよく分からない。
- ・ 今回アンケートに同封された「その他の紙」「雑誌・雑紙」の分け方出

し方を改めて見て、ためになった。ゴミ箱の近くにおいて分別したい。広報のみの情報源であるため、ゴミ減量について特集してもらいたい。また、HP や広報など情報のない人はどうやって知るのだろうか。

【ゴミ減量・リサイクルについて】

- ・ 子供の時から、リサイクルシステムを勉強してもらって、家族ぐるみでゴミに対する意識をもってもらうことが大切ではないか。
- ・ リサイクル率の低い理由について、詳しく知らしめ、重点的な取り組みをしたらどうか。学生アパートが多いが、ゴミ捨ての実態はどのなのか、大家の対応はどのなのか、とにかくリサイクル率の低い現状分析が重要。
- ・ ゴミ減量・資源リサイクルについては、個々人の意識に関わる部分が大きいので、広報に依る周知活動がとても重要である。
- ・ 意識の持ち方で量・分別・リサイクルは大部分が改良できる。減らし方の事例を具体的ケースで明示した方がよい。
- ・ ゴミ減量のためには有料化すべきである。
- ・ まず、弘前市として、ゴミ減量・リサイクル率向上が最優先事項であることを啓発することが大切だと思う。ゴミ処理は税金であり、コストを削減出来れば、子育て支援等の社会保障政策に充てることが可能である。市民が頑張った分、新たな市民サービスに直結することを強く発信してもらいたい。
- ・ 他の自治体の事例も参考にしながら、行政と市民が一緒になって取り組みれば必ず削減は可能である。
- ・ リサイクル率が弘前市ではこんなに低かったことを初めて知った。現在もゴミの出し方は気をつけているつもりであるが、もっとできることはないか今後も気をつけていきたい。
- ・ 市内スーパーには、雑誌を出せばポイントをもらえるところがある。ポイント制度を他のゴミにも導入してみてもどうか。
- ・ マーケットに補助金を出して、資源ゴミをマーケットに持っていったら、ポイントがつくようなポイント制を導入すれば、資源としての意識が高まるのではないか。
- ・ もっと事業所に関しても管理や徹底を重視していただきたい。
- ・ 地域・町内会・自治会等、生活の身近な所で具体的に指導・研修を実施していかないと効果はない。

【回収頻度・時間・方法・カラス対策等について】

- ・ ゴミ収集時間が遅いため、カラス被害で困っている。
- ・ 資源ゴミを積極的に回収すべきである。
- ・ 回収ステーションを増やしてもらいたい。

- ・ カラスがごみを荒らす様子が頻繁に見られ、まわりに散乱している。ごみ収集場所をカラスが入れないような作りにしてもらいたい。
- ・ 衣類回収ボックスの場所の表示がわかりにくい
- ・ ごみ捨て場を固定して欲しい
- ・ 資源回収のための収集日や場所等が限られている。もう少し日数や回収場所を増やし、足を運びやすいようにしてもらいたい。
- ・ 車がないとスーパー等の回収ボックスまで持っていくことが困難であるため、ごみ回収箱の付近にリサイクルボックスを置いてもらいたい。
- ・ 分別の種類が少ない。

【不法投棄・ポイ捨て等について】

- ・ 不法投棄の取り締まりを強化してもらいたい。
- ・ バス停のそばのごみ収集場所では、他の地域からの投げ捨てが多々見られる。
- ・ 車からのタバコの吸殻やコンビニの袋に入った食べ物のゴミや空缶等が平然と捨てられている。